

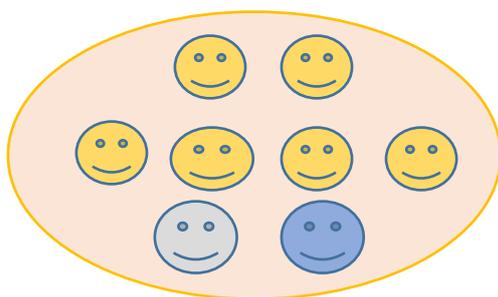
## 第2章 教室活動の紹介

この章では、教室活動の計画から実践までを、具体的に紹介します。

### 1 教室活動の3つのスタイル

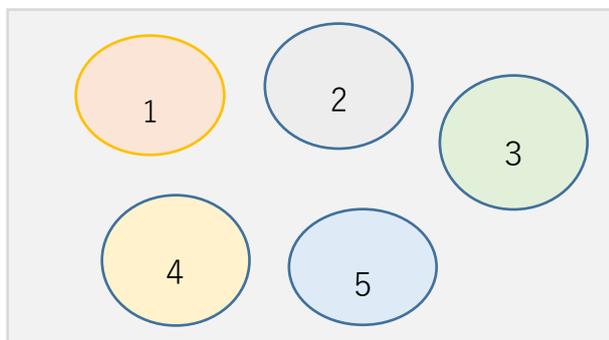
1期20回の中で、固定のグループによる「グループ活動」を中心に、全員で学ぶ「全体活動」、「特別活動」を組み合わせています。

#### ●固定のグループ



学習者：5～6人  
日本語サポーター：2人

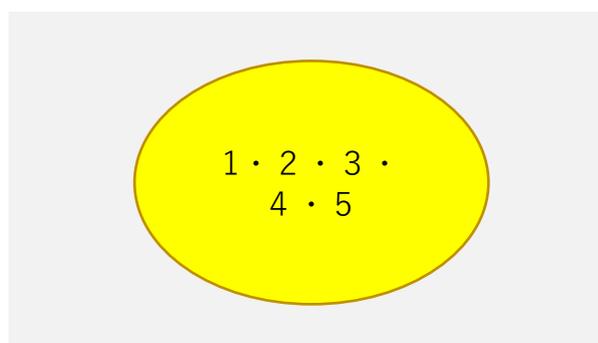
#### スタイル1 グループ活動（グループ別の活動）



- 基本のスタイルです。固定したメンバーで学びます。
- グループごとに内容が異なります。
- ときには、2グループが合同になることもあります。



#### スタイル2・3 全体活動・特別活動 （教室全体での活動）



- 教室全体で同じ学習をします。
- ほかのグループの人と交流できます。
- グループごとに、発表することもあります。



## 2 グループ活動～居心地よく、安心して学べるように～

### (1) レベルにこだわらないグループ作り～目指すのは「居心地の良さ」～

#### ①グループを作るまで

- コーディネーターが行うこと：教室申込のときに、インタビューをします。

(来日の背景、日本での生活や家庭環境、日本語学習ニーズなどを無理ない範囲で聞きます)

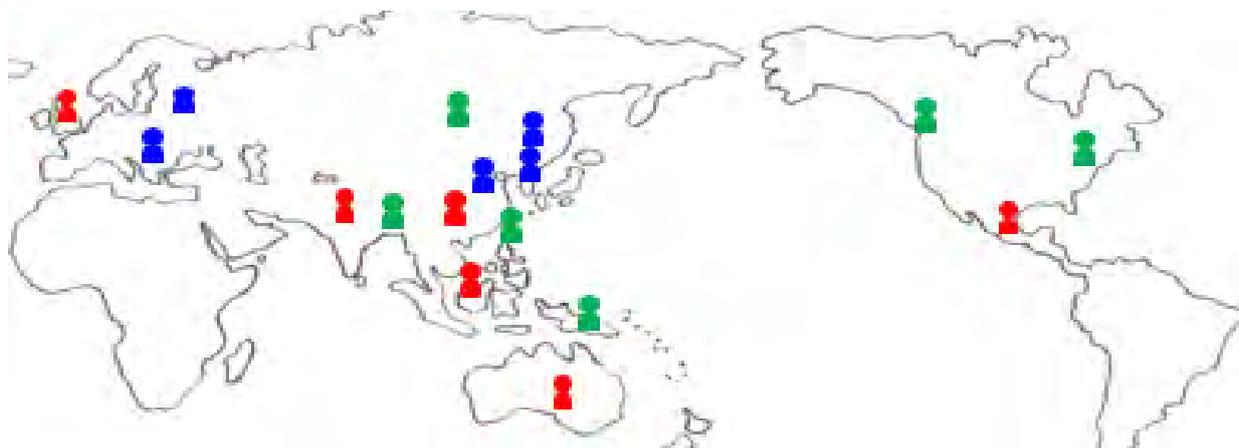
- サポーターが行うこと：第1回目の教室活動の様子をみます。

- ①「学習目的」 どのような学習ニーズを持つか
- ②「積極性」 すすんで参加しているか、日本語を使おうとしているか
- ③「理解度」 活動内容を分かっているか
- ④「協調性」 みんなと一緒にやろうという気持ちがあるか などの視点から

- 学習者が行うこと：第1回目の教室活動が終了時に、その日の感想などアンケートに答えます。

- 以上をもとに、コーディネーターとサポーターが話し合って決めます。

(例) 学習者の皆さん (イメージ) 17 各国・地域から 30 人のみなさん



#### グループ編成

グループA  「初心者」のグループ	グループB  特に「積極性」の高いグループ	グループC  「属性」(背景)の似たグループ
来日したばかり。日本語には慣れていないが、コミュニケーションをとることに意欲的で好奇心旺盛なグループ。	異なる国から来て、異なる文化を持った人たち。日本語で話すことにとても積極的なグループ。	主婦・主夫という共通点を持ったグループ。
①  +	①  +	①  +
②  +	②  +	②  +
③  +	③  +	③  +
④  +	④  +	④  +

①学習目的 ②積極性 ③理解度 ④協調性

## (2) グループの学習計画の立てかた～ゴールとトピック～

各グループの特徴を考えて、20回の学習計画を考えます。学習計画は大まかに決めておきますが、学習者の様子によって変更するなど、柔軟に対応できるようにしています。

●グループの特徴を踏まえて、20回の活動の【ゴール】を決めます。

【ゴール】 グループの特徴を踏まえて、20回を通じた活動のゴール（目標）を決めます。

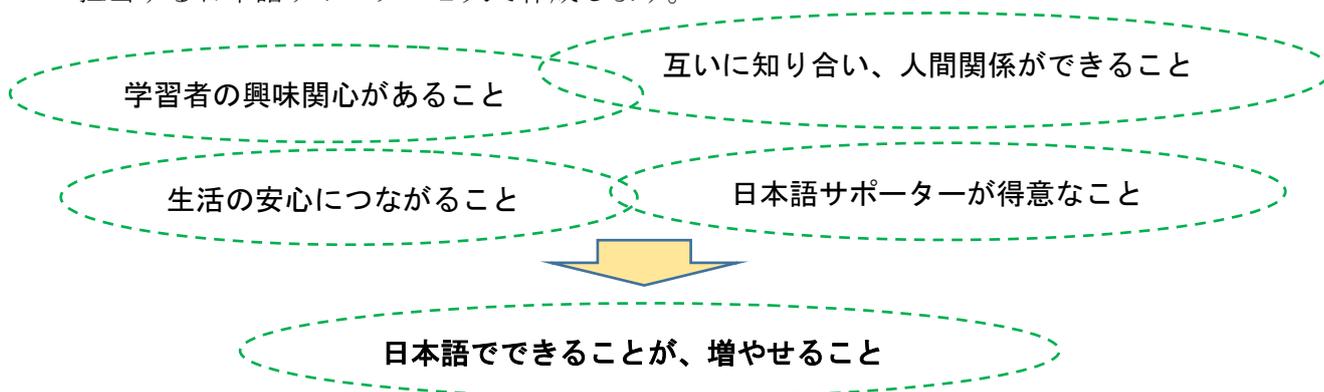
グループゴールの例

グループA「ありがとう」 	グループB「ラーメン」 	グループC「主婦（夫）の友」 
私の国について発表することを通じて、日本語を話すことに自信を持つ。	さまざまなトピックの会話を楽しみ、お互いの理解が深まる。	日常生活に必要な言葉をたくさん身につけて、会話を楽しめるようになる。

●毎回の活動の【トピック】と、毎回の目標を決めます。

【トピック】は、以下のように決めます。

グループの特徴から判断したり、グループの学習者へのアンケート・話し合いなどを参考に、担当する日本語サポーター2人で作成します。



ある回で決めたトピックと目標

トピック	ふるさと	ラッキーアイテム	1月日本のお正月
目 標	ワークシートの「今日の目標」をご参照ください。		

このような資料も参考にできます。

- ✓ 「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」（「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック）（文化庁）
- ✓ 「リソース型生活日本語」（公益社団法人 国際日本語普及協会）

### \*コラム2「グループ名を考えます」

グループ名「ありがとう」「ラーメン」などは、各グループで話し合っ考えました。グループの名前決めは、チームワーク作りにも役立つ教室活動です。

グループ「ラーメン」の人に、名前の由来を聞きました。「ラーメンは種類が多くてどれもおいしい。別々の国から来た私たちは、それぞれ違う『具』です。みんなが集まって、おいしいラーメンになります」

### (3) グループ活動の進めかた～実践事例の紹介～

日本語サポーターは、毎回、90分の教室活動を組み立てます。同じテーマでも、様々なトピックや、グループに合わせた活動の方法があります。

次ページから、日本語サポーターが実践した、具体的な進め方を紹介します。

#### ●実践事例：紹介する4つのテーマと8つのトピック

テーマ	活動例トピック	参照ページ
わたしの国	1 ふるさと	P 9
	2 私の国のラッキーアイテム	P 10
行事	3 日本の四季と年中行事	P 11
	4 1月日本のお正月	P 12
料理	5 カレーをつくります	P 13
	6 主食とおすすめ料理	P 14
健康	7 からだをうごかそう！	P 15
	8 わたしの健康法	P 16

#### ●活動の工夫あれこれ

##### ①「ワークシート」を道しるべとした学び

YOKE 日本語教室では、毎回のトピックに関するワークシートをサポーターが作ります。

ワークシートがあることで、

☆ 今日やることやポイントがわかります。

☆ 学習者が、話をするための手がかりになります。

毎回のワークシートはファイルにためていきます。学びの道筋がわかる、自分なりのオリジナルテキストができていきます。

##### ②視覚的な素材（イラストなど）で理解を促進

日本語に慣れていない学習者も理解がしやすくなり、発話のきっかけとなります。

##### ③導入／まとめの時間

トピックに入る前に、身の回りのことなどを話すなど、場をほぐす時間を作ります。また、その日の終わりには、一斉に、まとめの時間を10分間とっています。

##### ④日本語サポーターも同じ活動を

サポーターも学習者と同じく自分のことを話します。最初にサポーターが紹介することで、どう進めるのかがわかり、話しやすい雰囲気ができます。何より、お互いが理解できます。

##### ⑤繰り返し

ことばはなかなか身につかないもの。同じ表現を繰り返し、日本語に慣れていきます。

グループ A : ありがとう  
「初心者」のグループ

● 今日の目標

ふるさとについて話したり聞いたりすることで、  
来日して間もない学習者同士がお互いを知るきっかけをつくる。

● 活動の進め方

初めにサポーターのふるさとについて聞いて読む。学習者は自分のふるさとについて考えをまとめる（メモ）。その後、お互いについて聞き合い、話し合う。

● ワークシート（原寸大 p 24,25 参照）



活動の流れ・ポイント

1. サポーターが自分のふるさとを紹介します。イラスト、写真などを使います。
2. 学習者が言いたいことをメモする時間を取ります。メモは日本語でなくてもかまいません。サポーターは学習者が言いたいことをまとめる手伝いをします。
3. 学習者が自分用の語彙リストを作ります。
4. 学習者がサポーターに質問をします。サポーターはイラスト、写真などを使い話します。
5. 学習者同士でQ Aをします。サポーターは学習者の会話に必要な情報を随時、提供します。

● 活動で工夫したこと

スマホの写真なども使ってできるだけ多くの情報を交換し、お互いを知りやすくするようにしました。

● 担当した日本語サポーターの感想

初めに、サポーターが自分のことを言ったので、話しやすい雰囲気になりました。  
話したい聞きたい気持ちがあふれて、初めて知る場所についても楽しくQ Aしていました。  
さらに、「おすすめ」について「どうして～がおすすめですか」という質問で、より深い話を聞けます。  
このトピックは、お国自慢に発展し、最終回には各自の国のポスター発表ができました。

● 今日の目標

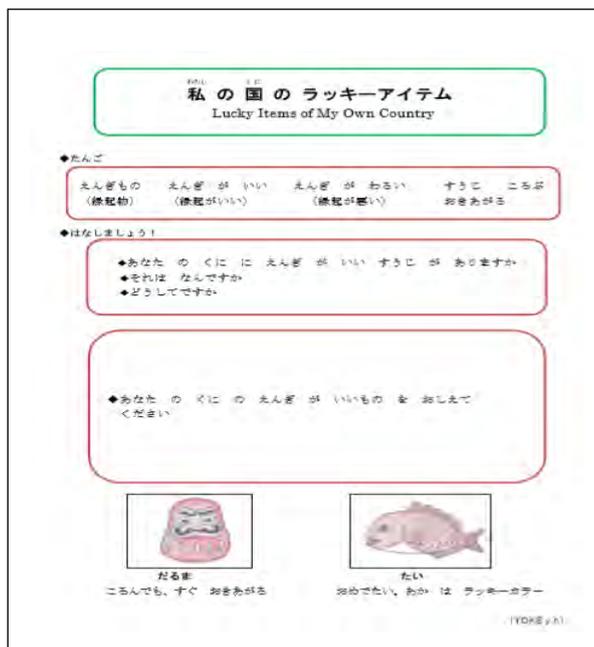
ラッキーアイテムを通して自国紹介をするとともに、グループメンバーそれぞれのお国柄・文化を共有する。

グループB：ラーメン  
特に「積極性」の高いグループ

● 活動の進め方

初めに「縁起物」の意味を理解し、学習者が質問しサポーターが答えることで活動のイメージを持ったのちに、学習者の発話につなげていく。

● ワークシート（原寸大 p26 参照）



● 活動の流れ・ポイント

1. 学習する主な単語を確認します。漢字圏の学習者には、漢字があると理解しやすいです。
2. 学習者がサポーターに質問します。Q 縁起のいい数字がありますか／それは何ですか／どうしてですか
3. 学習者は同じ質問をチェーンドリル形式（答えた人が次の人に質問）で話していきます。
4. トピックを「縁起物（ラッキーアイテム）」に変えて、学習者がサポーターに質問します。  
Q：縁起物がありますか／それは何ですか／エピソードを教えてください
5. 学習者が自分の話したい事をメモする時間をとります。サポーターと共に、単語や表現を探します。
6. 学習者が順に発表します。発表後学習者間で、自然に QA できるようにします。

● 活動で工夫したこと

学習者が言いたいことが見つからない時は、スマホの辞書等を活用したり、サポーターとの QA を進めることで、新しい表現を学びます。

● 担当した日本語サポーターから

縁起のいい数字からスタートしたところ、学習者に「縁起物」のイメージが付き易くなりました。また、グループ内の国籍が違ったので、それぞれのお国柄がわかり興味深かったです。学習者の言いたいことを、QA を通じ、共に探す作業は有意義でした。「縁起のいい」から「縁起の悪い」数字・物 に、自然と話が広がりました。

トピック3 < 日本の四季と年中行事 >

● 今日の目標

日本の行事の話を通じて、日本について理解するとともに、母国と日本の四季にある行事を話し合い、お互いの国について理解すること。

グループB：ラーメン  
特に「積極性」の高いグループ

● 活動の進め方

まず、ワークシートに沿って、日本の四季と季節ごとに行われる主な行事について話す。同じ行事など母国にあったら話してもらおう。学習者が言いたいことばが見つからない時は、スマホの辞書等を活用したり、支援者とのQ Aを進めることで、新しい表現を学ぶ。

ワークシート（原寸大 p27 参照）



● 活動の流れ・ポイント

1. 絵カードを見ながら日本の四季について話します。学習者の国にも四季があるかを聞きながら進めます。
2. 学習者は答えたあと、同じ質問を次の人にしながら話していきます（チェンドリル形式）。
3. 日本にある、各月の行事について話します。次に母国の行事について話します。思い出などがあれば、話してもらいます。
4. 印象的な事をメモする時間をとります。その後一人ずつサポーターに質問し、新しいことばを探します。
5. 今日勉強したことば、話し方について発表します。学習者間の自然なQ Aにつながります。

● 活動で工夫したこと

- ・日本の四季に関しての絵本などを用意し、スムーズな発話につながるようにしました。
- ・教室活動の冒頭で、ウォーミングアップを兼ねて、季節に関する単語を紹介しました。

● 担当した日本語サポーターから

学習者の国籍が違くと、それぞれのお国の事情に対し知りたい気持ちも生まれてくるので、お互い聞きやすくなります。似た行事・違う行事などについて話せるように質問しました。話を通して、お互いへの理解ができ距離がグーッと縮まったように感じました。余裕があれば、よかったことや悔しかったことなど、思い出などで話を広げていくのもいいでしょう。



グループA：ありがとう  
「初心者」のグループ

● 今日の目標

日本のカレー料理をきっかけとして、学習者が好きな料理についてお互いに興味を持って話したり聞いたりする。

● 活動の進め方

カレーの作り方を通して、食材や料理の用語や食事の挨拶などを  
知り、学習者が好きな料理やふるさとの料理について話し合う。

● ワークシート（原寸大 p 30,31 参照）



活動の流れ・ポイント

1. カレールーの箱を何箱かテーブルに置き、学習者の興味を引き出します。
2. 材料となる食材について名前と数え方を知ります。
3. 調理する順番を追って、調理器具の名前や調理のことばについて皆で話します。
4. 日本には食事の挨拶があることを知り、学習者の国の挨拶に話がおよびます。味についても話を広げます。
5. 学習者に、好きな料理や得意な料理について問いかけて、各自の料理に話題を移します。  
(学習した表現を使って話が広がります)

● 活動で工夫したこと

カレールーの箱やスーパーのチラシなどを使って、学習者の興味を引き出し語彙を広げました。  
生教材のないものは写真や絵カードなどを利用して、絵で情報を得て発話に繋げました。

● 担当した日本語サポーターから

カレーの箱で話題が盛り上がり、カレーを作ったことがある学習者が話題を広げてくれました。材料や調理に関する語彙から自分の得意料理の話につながりました。各国の料理に興味を持って、お互いに写真を見せあいながら'聞き・話す'という活動を活発にしました。次の回には、ある学習者が自慢料理を作ってきてくれました。

トピック6 <私の主食とおすすめ料理>

● 今日の目標

自分の主食やおすすめ料理を通して、学習者同士が食文化の共通点や違いを理解出来るように情報を交換する。

グループC：主婦(夫)の友  
「属性」(背景)の似たグループ

● 活動の進め方

主食について比較をする。出身国のおすすめ料理を紹介し特徴について説明する。日本での調理のことばを学び、日本食についても意見交換をする。

● ワークシート (原寸大 p 32,33 参照)



● 活動の流れ・ポイント

1. 最初に、主食に関する単語と料理に関することばを確認します。
2. イラストや写真を使って、主食について話をします。
3. 学習者が主食について話をし、お互いに意見交換します。
4. 出身国のおすすめ料理があれば具体的に話をします。お互いに質問する時間を持ちます。
5. 日本での料理の動作と単語、イラストを使って説明します。好きな日本料理について話をします。
6. 自分のおすすめ料理レシピ作りが、宿題となりました。

● 活動で工夫したこと

同じ主婦(夫)の属性で、特に料理好きの学習者達。知識も豊富なので、日本での料理の基本的な単語を理解するようにイラストなどを使い説明しました。

● 担当した日本語サポーターから

このトピックは2回連続で実施しました。初回に主食や料理に関することばを学びました。主食の違いを理解することで、学習者同士の話が深みのある意見交換の場になりました。その後自国のおすすめ料理レシピを全員で交換することができ、ほかのメンバーのレシピをもとに実際に料理を作る人もいました。材料や料理方法についてお互いに情報の交換もしました。宿題で書いてきたレシピの完成度は非常に高く、驚くほどでした。

● 今日目標

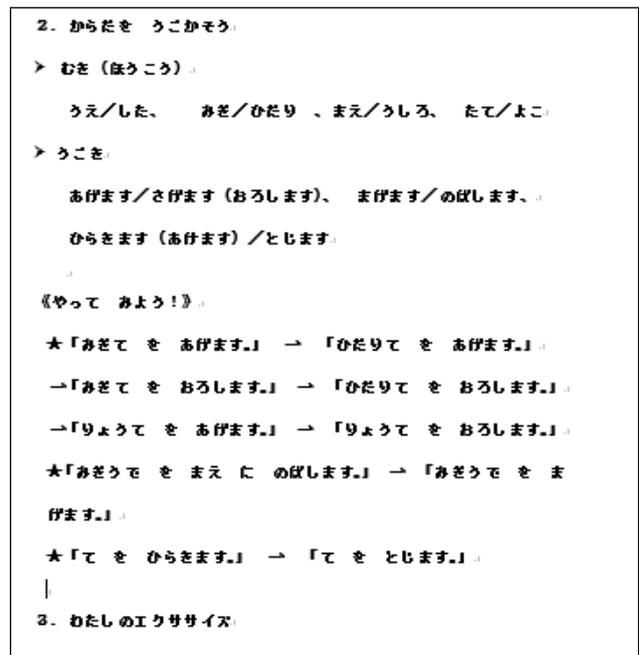
身体のパーツの名称や動かし方を日本語で話すことができる。

グループA：ありがとう  
「初心者」のグループ

● 活動の進め方

身体のパーツに関連することばの学習を通して、日頃のエクササイズなどについて話す。

● ワークシート（原寸大 p 34・35 参照）



● 活動の流れ・ポイント

1. 身体各部位の名称を、絵を見ながら学習。学習者にひとつずつ聞きながら、名称を知っている人がいれば言ってもらいます。
2. 身体動作に関する表現を学習。前後左右など方向を表すことばや、上げる・下げるなど基本的な動作に係ることばを学習します。
3. 学習したことばを使ってサポーターが身体を動かすフレーズを言い、実際に学習者にその動きをやってもらいます。
4. 自分が好きなヨガのポーズを1つ選んで、そのポーズのとり方を日本語で説明してもらい、みんなで一緒にやってみました。

● 活動で工夫したこと

机上の学習だけでなく、身体部分を指したり、学習者に実際に身体を動かしてもらうことで、関連のことばを覚えやすくするようにしました。

● 担当した日本語サポーターから

身体を動かしての学習はおもしろかったと学習者に好評でした。グループの学習者全員がヨガをやっていたので、最後にヨガのポーズを取り上げたところ、学習者どうしで相談しながらインストラクションを作成するなど、楽しそうな雰囲気になりました。今回のトピックは、媒介語（共通言語）にあまり頼らずに、基本のことばを学習することができました。

● 今日目標

意見学習者同士が自分の健康法を共有し話し合うことで、海外生活で健康を維持するには何が必要か、情報を共有する。

グループC：主婦(夫)の友  
「属性」(背景)の似たグループ

● 活動の進め方

イラストなどをうまく使いながら、語彙を増やす。  
学習者同士で情報を共有し質問して会話をふくらませる。

● ワークシート (原寸大 p36・37 参照)



● 活動の流れ・ポイント

1. 「程度」を表す単語を学びます。学習者にわからないことばがあるか確認します。
2. 導入部分をタイプ分けしてわかりやすくしました。例にあげたタイプごとに流れを確認します。
3. 自分がやっている健康法を紹介します。どんな事を一週間にどのくらいやっているのか。その結果についても話します。
4. 最後に、健康的でないことをしている人へ、アドバイスを試みます。

● 活動で工夫したこと

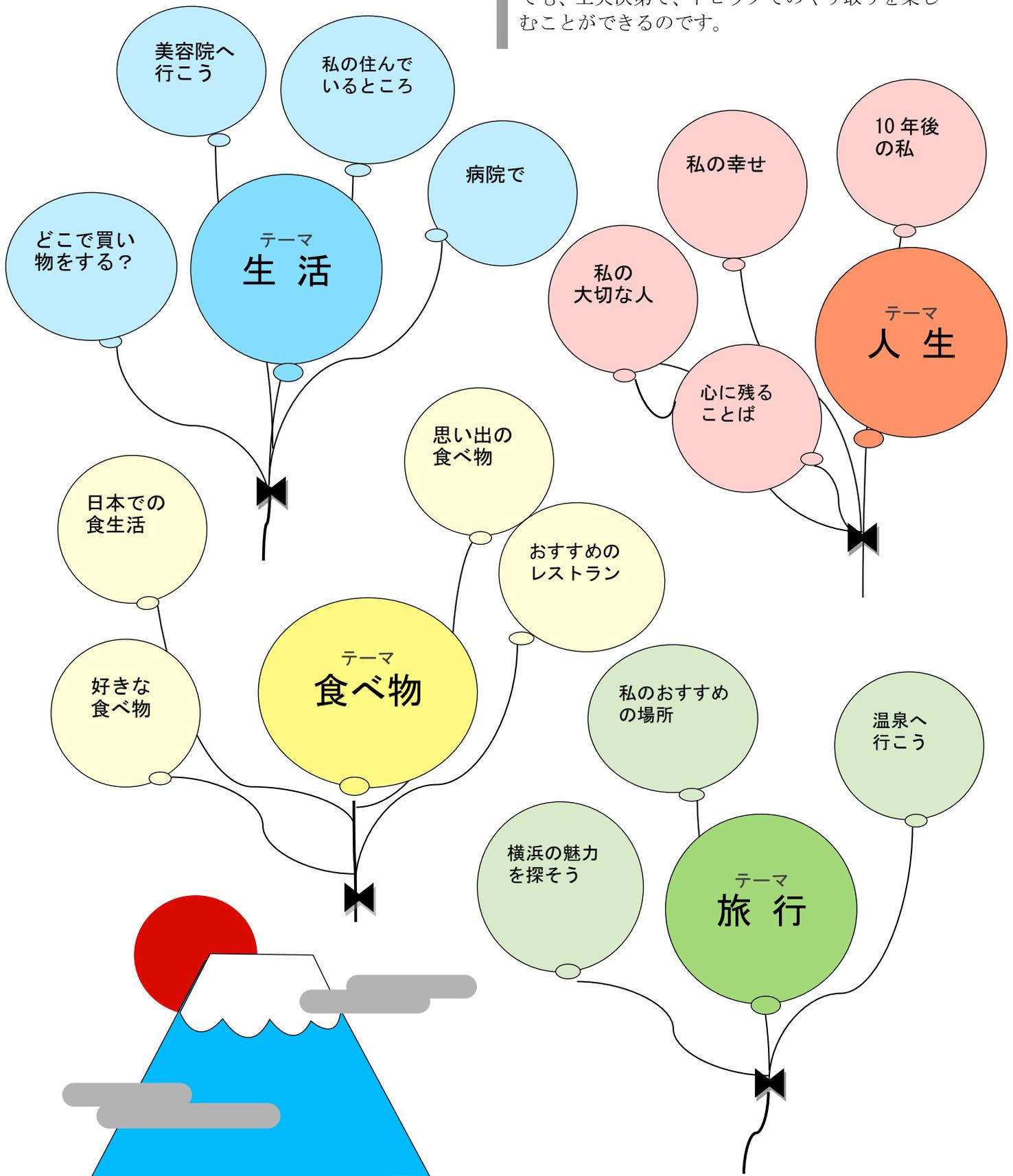
自分の体験をもとに話をしてもらいます。よかったことなどを紹介して、身近で簡単にできる健康法について話をします。お互いにやってみて良かった健康法を、グループメンバーに勧めてみます。

● 担当した日本語サポーターから

このグループの属性(主婦・主夫)に関係しますが、毎日乗っている「ママチャリ健康法」について実践例を話してくれた人がいました。身近な健康法の実践に「そうだね!」との賛同の意見がでて、会話が広がりました。グループメンバーの日常生活での健康に対する工夫を感じることができたトピックでした。

#### (4) テーマから広がるトピック

1つのテーマから、様々なグループ活動のトピックを考えることができます。どのようなグループでも、工夫次第で、トピックでのやり取りを楽しむことができるのです。



## 3 全体活動 ～グループを超えてつながりあう～

### (1) 全体活動って？

グループの垣根を超え、日本語教室に参加する全員で行う活動です。全20回のなかで、3回程度（初回・中間期・最終回など）、各10分～30分程度の時間を使って行っています。日本語を使ったアクティビティや、グループ発表、修了式など、お互いに知り合うとともに、日本語を使って発表する場となっています。

### (2) 全体活動の例

#### 第1回【誕生日順に並ぼう／サインをもらおう】



初対面の第1回は、だれもが緊張するものです。また、日本語がほとんどわからない人もいるため、ジェスチャーなども使って、体を動かしながら楽しく自己紹介できるようにします。数字を言って協力しあいながら誕生日順に並んだり、挨拶しながらサイン交換をして自分のサインシートをいっぱいにしたりと、参加しやすい工夫で、にぎやかに楽しく進みます。

#### 第8・9回【グループ紹介】



中間期には、それぞれのグループがミニ発表をします。グループ名の由来やメンバーの紹介などです。お芝居あり、他己紹介あり、と個性のみられる楽しい発表です。日本語初心者の方も、メモを見ながら頑張ります。

#### 第20回【ティーパーティ】



最終回には、修了式と懇親を行います。ティーパーティでは、ホストグループを決めて、招待状づくりや司会なども行いました。成果発表やひとこと感想、特技の披露などもあります。教室が終わっても、皆さんがつながっていきますように。

## 4 特別活動 ～教室の外の人と学び合う～

### (1) 特別活動って？

日本語教室外からゲストを招いて行う教室活動です。1期に1回を目安に行っています。

1年間で、以下の3つのテーマを1回ずつ扱うように計画しています。

- **多文化コミュニケーション**

市民のみなさんを教室に招き、1対1で日本語を使った交流活動を行います。どのようにしたらコミュニケーションが成立するか、相互理解と交流の場です。

- **日本文化体験**

折り紙、風呂敷など、学習者が興味を持つ身近な日本文化を通じて学びます。地域に登録する市民講師などをお招きしたり、一般市民の方の参加も促したりしています。

- **生活情報**

日本で安心して生活するために必要な情報を、やさしい日本語で学びます。これまで、消防署・警察署・資源循環局、区役所などから職員を派遣していただきました。職員のみなさんと外国人住民の接点の場ともなっています。

### (2) 特別活動の例

- **多文化コミュニケーション／日本文化体験（市民を交えた交流活動）**

#### 【交流セッション】



「私のお気に入り」「子どものころの思い出」などのテーマに合わせ、自分を紹介する写真などを用意して対話を行います。思わぬ共通点がみつかったりします。



#### 学習者の声

- ・自分の言葉で話して嬉しいです。
- ・難しかったけど楽しかったです。日本人と出会えて良かったです。
- ・たくさん日本語が話せて良かったです。

#### 市民の声

一生懸命、日本語を話そうとする姿に感動しました。日本語がよく分からない外国の方への話し方を考えるよい機会でした。

#### 【風呂敷に親しもう／折り紙交流会】



日本文化を体験しながら、学習者同士、また、ゲストとの相互理解につなげます。

- 生活情報～日本で安心して暮らすための情報を得る  
【ゴミの分別講習会】



日本のゴミの分別の仕方を学びます。実際の物を使って、分別してみました。さらには、分別がリサイクルにつながることを学びました。

- 【119 通報訓練&AED 体験】



消防署の協力により 119 番通報と AED の体験をしました。事前に、学習者自身が病气やけがをした時の体験談や、母国での救急時の対応などを話しました。

- 【交通安全講習】



警察署の協力を得ました。日本での交通ルールをテーマとし、道路標識や、自転車に乗る時のルールも学びました。国際運転免許証についての質問がありました。

## 5 YOKE 日本語教室に参加して

日本語教室に参加した学習者と日本語サポーターの声

### 学習者の声



- YOKE の日本語教室に参加しておもしろかった。そこで、多くの国から来た人と会うことができた。
- このクラスで、日本語を話す自信がすこしずつ出来てきた。このクラスは楽しい。先生や仲間は親しみやすく、家族のようだ。
- 世界各国の人達と知り合うことができ良かったです。日本の食事のマナー、文化に触れることができ良かった。
- 教科書を使うよりも、自分が言いたいことを話したり、必要な言葉を覚えることができる。
- ビギナーの時から会話を勉強したので、生活に役立った。たくさんの言葉を覚えた。
- 交流セッション、ティーパーティは、本当の日本人と話せた。リアル。
- ふろしき講習が良かった。
- イベントも勉強になる。教室のなかで他の人と話す機会になる。イベントはネイティブと話せる。(サポーターと日本語が違う)。難しい日本語を話すから、質問ができる。わからないことはあとでサポーターに質問します。

(注) アンケートやインタビューより。翻訳や要約をしています。

### サポーターの声



- 日本語での楽しい会話だけでなく、それぞれの学習者の得意なことや出身国や既滞在国の情報交換の場となることも多々あります。
- 学習者達に支援者が混ざって皆で学び合うことも多いと思います。
- 私の常識は他の人の常識でないということ、常に初心に戻られます。
- 文化や日本への見方、目から鱗の事が多く、大変興味深いものがあります。日本語教室の醍醐味でしょうか。
- 学習者の場合、日本語があまり上手でない人でも、その人にとって関心が強い話題だと驚くほど話すときがあります。

### 活動で心がけていることは？

- いつもオープンマインドに、好奇心を持つてのぞむことを大事にしています。
- 楽しく活動できるトピック探し (いかに学習者自身を表現してもらえるトピック探し)
- 学習者とサポーターが同じ土俵にのり、上からものを見ないという事でしょうか。